

大分県文化財調査報告書 第99輯

二本木遺跡

県道緒方大野線道路改良事業に伴う発掘調査報告書

1998

大分県教育委員会

二 本 木 遺 跡 (N～P 地区)

県道緒方大野線道路改良事業に伴う発掘調査報告書



序

大分県教育委員会は、大分県土木建築部の依頼を受け、県道緒方大野線改良工事に伴う大野郡大野町二本木遺跡の発掘調査を平成8、9年度に実施しました。

二本木遺跡は「大野原」台地に立地する県下でも代表的な弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡として知られていますが、今回の調査でも、新たに一字一石経が発見されるなど、多くの成果を挙げることができました。

本書が先人の営みの足跡を知り、将来守り伝えるべき文化財資料として多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後にこの調査について多大な御協力をいただきました関係各位及び地元の方々に対し、心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

大分県教育委員会教育長

田 中 恒 治

例 言

1. 本書は県道第4大野線道路改良事業に伴い平成8年度と平成9年度に調査をおこなった大野郡大野町二本木遺跡N～P地区の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、大分県土木建築部の委託事業として大分県教育委員会が実施した。

3. 調査組織は、以下のとおりである。

調査委員 後藤一郎(大分県教育庁文化課長・平成8～9年度)

野田武志(同課長補佐・平成8年度)

田原基之(同課長補佐・平成9年度)

秋古心良(同課長補佐・平成9年度)

調査主任 渋谷忠章(同文化課主幹兼埋蔵文化財第2係長・平成8年度)

清水宗昭(同文化課主幹兼埋蔵文化財第2係長・平成9年度)

調査員 玉水光洋(同文化課埋蔵文化財第2係主査・平成8年度)

渡辺重昭(同文化課埋蔵文化財第2係主査・平成8年度)

友岡信彦(同文化課埋蔵文化財第2係主査・平成8～9年度)

吉田博嗣(同文化課埋蔵文化財第2係嘱託・平成8年度)

濱田教雄(同文化課埋蔵文化財第2係嘱託・平成8年度)

豊田徹士(同文化課埋蔵文化財第2係嘱託・平成8年度)

村上久和(同文化課埋蔵文化財第2係副主幹・平成9年度)

後藤幹彦(大野町教育委員会社会教育課・平成9年度)

田部泰登(大野町教育委員会社会教育課・平成9年度)

調査事務 山崎靖信(大分県文化課課長補佐兼管理係長・平成8年度)

佐藤真也(同管理係主査・平成8年度)

河野孝一(同主幹兼管理係長・平成9年度)

渡辺重昭(同文化課埋蔵文化財第2係主査・平成9年度)

4. 本書の執筆者は次のとおりである。

第1章 はじめに

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 調査に至る経緯 | 村上 久和 |
| 2. 遺跡の位置と環境 | 後藤 幹彦 |

第2章 二本木遺跡の調査

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 調査の概要 | 村上 久和 |
| 2. 弥生時代住居跡 | 吉田 博嗣 |
| 3. 弥生時代南側溝 | 後藤 幹彦 |
| 4. 茶屋場跡 | 吉田 博嗣 |
| 5. 茶屋場井戸跡 | 吉田 博嗣 |
| 6. 近世一字・石経塚 | 村上久和・後藤幹彦 |
| 7. 出土遺物について | 村上・吉田・後藤 |
| 8. 小 結 | 村上・吉田・後藤 |

第3章 まとめ

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. 二本木弥生時代条溝集落について | 後藤 幹彦 |
| 2. 二本木茶屋場跡について | 吉田 博嗣 |
| 3. 二本木茶屋場跡・一字・石経塚の経石について | 秋川 真一 |

5. 遺構・遺物の実測・写真・トレースはそれぞれの担当者および牧尾義則、衛藤麻衣がおこない、巻頭図版・遺物写真については長谷川正美氏がおこなった。なお、遺物の整理・復元は県文化課資料室で主として石井 梓子、佐藤やよい、後藤一美、竹藤千里がおこない、保管も同室でおこなっている。
6. 一字・石経についての分析は大宰府市教育委員会狄川真一氏に主稿をいただいた。
7. 本書の編集は各担当で協議して行った。

本文目次

第1章	はじめに	1
	1. 調査に至る経過	1
	2. 遺跡の位置と環境	1
第2章	二本木遺跡の調査	4
	1. 調査の概要	4
	2. 弥生時代住居跡	5
	3. 弥生時代南側溝	6
	4. 茶屋場跡	7
	5. 茶屋場井戸跡	8
	6. 近世一字・石経塚	9
	7. 出土遺物について	10
	8. 小結	15
第3章	まとめ	16
	1. 弥生時代集落について	16
	2. 二本木茶屋場跡について	18
	3. 二本木茶屋場跡・一字・石経塚の経石について	19

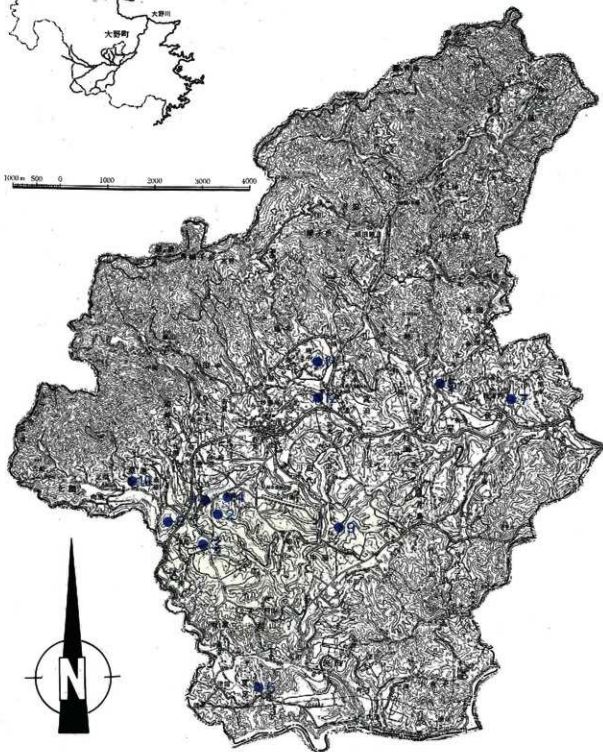
挿図目次

第1図	大野町主要遺跡分布図	第2図	二本木遺跡周辺遺構分布図
第3図	二本木N区遺構配置図	第4図	84号竪穴住居跡平面図・断面図
第5図	85号竪穴住居跡平面図・断面図	第6図	南側溝平面図
第7図	南側溝上層図	第8図	茶屋場跡全体図
第9図	茶屋場跡上層上層図	第10図	井戸跡平面・上層断面図
第11図	一字・石経塚平面図	第12図	一字・石経塚竪坑平面図・断面図
第13図	土坑内出土銭拓本	第14図	二本木遺跡出土縄文土器実測図
第15図	二本木遺跡出土弥生・近世土器実測図	第16図	二本木遺跡出土石器実測図
第17図	二本木遺跡一字・石経実測図(1)	第18図	二本木遺跡一字・石経実測図(2)
第19図	二本木遺跡一字・石経実測図(3)	第20図	二本木遺跡条溝内遺構配置図
第21図	平塚川添遺跡遺構配置図		



1. 二本木遺跡 2. 近中遺跡 3. 藤場遺跡 4. 小鹿遺跡
 5. 光昌寺遺跡 6. 夏足原遺跡 7. 牧原西遺跡 8. 道ノ原遺跡
 9. 松木遺跡 10. 勢の原古墳 11. 御塚古墳 12. 浅草横穴墓群

1000m 500 0 1000 2000 3000 4000



第1図 大野町主要遺跡分布図

第1章 はじめに

1. 調査に至る経過

二本木遺跡は大野川上流域における台地上の弥生時代後期～古墳時代の初頭の中核的村落として周知されているが、この台地の東側を通っている県道緒方・大野線の改良工事が平成8年に計画された。さらに、この改良工事地点は、大野町指定史跡で近世岡喜の茶屋場跡があるのみでなく、径約10mの塚状の高まりが認められた。そこで、3月に試掘調査を行い、その結果弥生時代の条溝、堅穴住居跡、江戸時代の岡藩茶屋場跡の土塁や井戸、一字一石経塚などが検出された。そこで平成8年5月より弥生時代の堅穴住居跡、および一部町史跡指定解除をした茶屋場跡の調査をおこなったが、縄文時代晩期の包含層、弥生時代の条溝、一字一石経塚の調査は諸般の事情で平成9年5月～6月に行った。(村上)

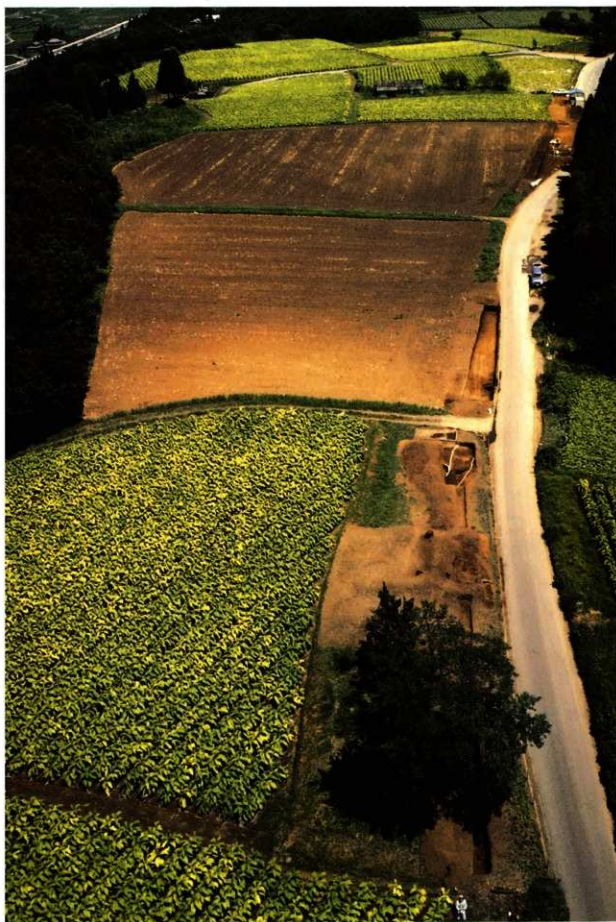
2. 遺跡の位置と環境

大分県大野町は大野川の中流域に位置する。大野川は、祖母山系や久住山系にその源を発し途中多数の支流と合流しながら別府湾に注ぐ県内最大の河川である。大野町内ではいたるところに阿蘇山から噴出された溶結凝灰岩の堆積による広大な火山台地面が形成されているが、それらは小河川の浸蝕により複雑な形に分離され独立状を呈する台地群となっており、これらの台地には火山灰が厚く堆積している。また、台地の間を縫うように流れる小河川の水系によりいくつかのブロックに分けられる。町の西部から南東に流れ大野川に合流する平井川水系、中央部を南流して平井川と合流する田代川水系、北部・東部から千歳村方面に東流し大野川に合流する酉川水系が主な水系である。これらの河川添いには沖積平野が形成されているが、近隣の緒方町や三重町とは違い大野町内においては台地の方が優位に発達している。これらの火山台地上には、旧石器時代以来の遺跡が多数存在しており、とくに、厚く堆積するローム層中に良好な包含層が多くみられる旧石器時代遺跡は、県内でも有数のフィールドになっている。この他にも、縄文各時代、台地上に大集落が形成される弥生・古墳時代など良好な遺跡が多く展開する。

こういった立地の中で二本木遺跡は大野川の支流平井川によって浸蝕を受けた、大野原台地群の西端部に位置し、平井川に合流する酒井寺川が沖積した谷水田地帯を西にのぞむ通称「王ノ原」といわれる一角を占める。この地は、東から小虎谷と呼ばれる小さな谷が入り込み、北の原原、南の大原を結ぶ幅約240mの地峡部となっている。遺跡は、この地峡部の平坦面一帯の南北約400m・東西約150mの範囲に広がっている。周辺の遺跡としては、近中遺跡・踏場遺跡・小虎遺跡があり、酒井寺川を挟んで対峙する丘陵上には、追ノ原遺跡がある。いずれも弥生時代中期から後期にかけての遺跡である。なお、二本木遺跡の西方約500m、酒井寺川東岸の谷水田のある台地の西側斜面と「おつる水」にいわれる湧水があり、現在も利用されている。(後藤)



第2図 二本木遺跡周辺邊構分布図(1/4000)

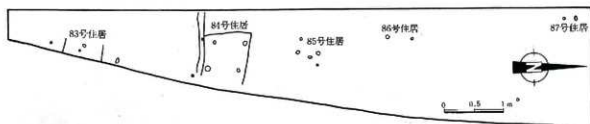


二本木遺跡N～P調査区景

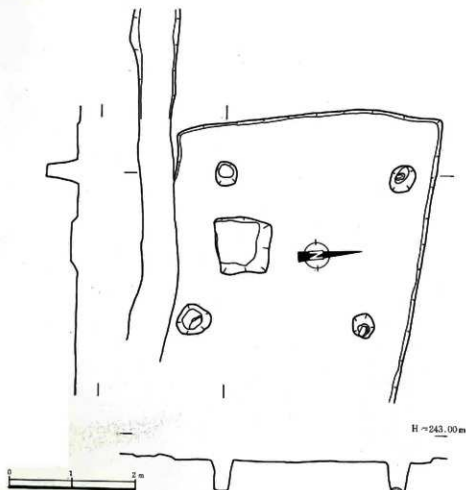
第2章 二本木遺跡の調査

1. 調査の概要

今回の調査は二本木遺跡のN区～P区にかけて道路拡幅部分約800mをおこなった。その結果、N区では弥生時代終末の竪穴住居跡5基が、O・P区では江戸時代の岡藩の茶屋場跡のうち上屋と井戸跡や同じく江戸時代前半の一字一石経塚及び弥生時代後期～終末期にかけての条溝を調査した。以下その詳細を述べる。



第3図 二本木N区遺構配置図



第4図 84号竪穴住居跡平・断面図

2. 弥生時代住居跡

83号竪穴住居跡

調査区南側で検出され、本遺跡でも最も低い位置に構築された住居跡の一つである。削平により、東西プランを確認することができないが規模からして1本もしくは2本柱の構造であったと思われる。

84号竪穴住居跡

調査区中央で検出した。東西4.5メートル、南北4.0メートルの方形プランで、深さはかなり削平を受けており約10センチ程度の残りである。埋土は黒色のクロボク層で自然に埋まった状況を示しており、遺物の流入を多くみる。4柱穴のうち1カ所をのぞいて礎板石が確認され、東北の柱穴からはほぼ1個体分の甕の胴部が礎板石の上面で確認された。

85号竪穴住居跡

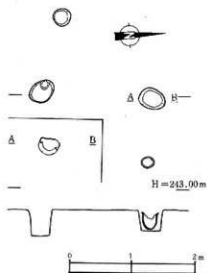
調査中央83号の北側で検出した。完全に削平を受けており、柱穴のみ確認した。主柱穴は2つで、柱穴掘方は径約40センチの楕円形を呈し、深さ40センチ前後を測る。主柱穴間は1.8メートルで小規模なものである。北側の主柱穴には弥生時代終末期の甕が倒置されていたが、後の牛蒡の植え付けのため半分が失われていた。

86号竪穴住居跡

調査区中央北側で検出した。完全に削平を受けており柱穴のみ確認されたが、深さは75センチ前後で比較的残りはよかった。主柱穴間は2.2メートルであった。

87号竪穴住居跡

調査区北側で検出した。完全に削平を受けており、柱穴の深さは30センチ前後であった。主柱穴間は1.4メートルとかなり小規模なものである。(吉田)



第5図 85号竪穴住居跡平面図・断面図

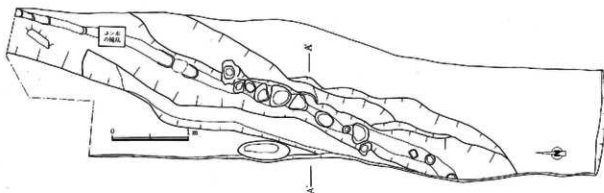


85号竪穴住居跡遺物出土状況

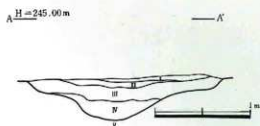
3. 弥生時代南側溝

南側溝は、調査区中央部を南方向から北方向に横切っており、南側調査区端部では西方向につよく方向変換をする気配が窺え、台地のくびれ部を結ぶ形で存在すると考えられる。その時代を特定できる遺物は出土していないが中・近世の遺物等も出土していないところから平成4年度調査(人野町教委調査)で確認された北区の溝とは集落を挟んで反対側に位置しており、この北区の溝と同様に弥生時代後期前後に造られたと考えるのが妥当であろう。南北2本の溝がセットで二本木集落を囲む条溝を形成していたと考えられる。また、Pit 1 および 2 は段状に形成されている溝底面に掘られており、その2つを線で結ぶと溝と完全に平行であるため柵列の施設が存在したことが窺えるが溝内にはそうした痕跡はないことから、布掘り状の柵列が想定できる。

溝の土層をみると褐灰色粘質ソフト表土(第1層)、褐灰色粘質ソフト、ローム黒ボク土混入(第2層・Hue7, 5YR)、黒褐色粘質ソフト(第3層・Hue2, 5Y3/2)、黒褐色粘質極くハード(第4層・Hue2, 5Y3/2)、黄褐色粘質ハードローム地山(第5層・Hue10YR8/8)の5層に別れている。段状部の最下層底面には部分的に鉄分を含んだ層があり、この溝が通常は水が流れていないいわゆる空堀であったと考えられる。(後藤)



第6図 南側溝平面図(1/60)



二本木遺跡南側溝土層観察表

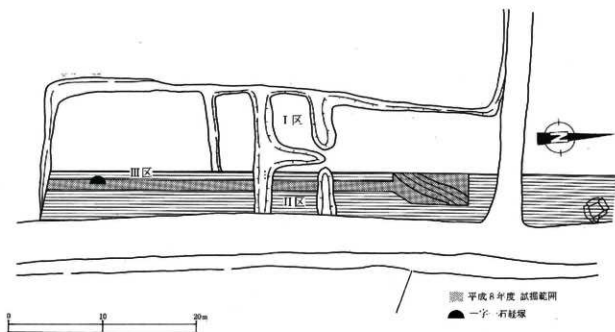
層位	名称・土質観察記号	特徴	土層色	備考
I	表土 Hue7.5YR	粘質土	ソフト	最上・下層
II	層位 Hue7.5YR	粘質土	ソフト	中層・下層
III	層位 Hue2.5Y3/2	粘質土	ソフト	最上・下層
IV	層位 Hue2.5Y3/2	粘質土	ソフト	最上・下層
V	層位 Hue10YR8/8	ローム	ハード	最上・下層

第7図 南側溝土層図(1/40)



南側溝土層写真

4. 茶屋場跡



第8図 茶屋場跡全体図(1/4000)

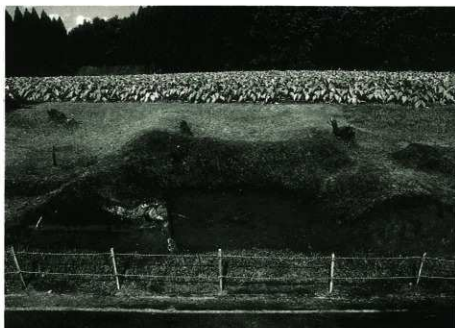


第9図 茶屋場跡土層図(1/200)

礫石層間土層記号

- 1層 土
- 2層 粘黄褐色 礫石層 土層(黄砂代用砂層)
- 3層 粘黄褐色 礫石層 ローム状含
- 4層 粘黄褐色 ローム・粘黄褐色(黄砂代用砂層)
- 5層 粘黄褐色 ローム多・ローム状含
- 6層 粘黄褐色 ローム状含

4. 土塁状遺構

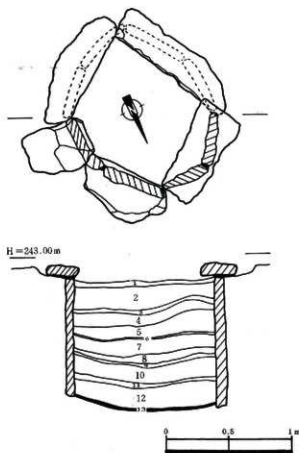


二本木茶屋場跡土層全景

二本木茶屋場跡は、現状で確認することのできる土塁状遺構と調査で発見された井戸跡で構成される。前者は3つの区画からなり、各々の施設をⅠ～Ⅲ区とした。Ⅰ・Ⅱ区は北側出入口が設けられているがⅢ区については現況で確認することはできない。

土塁状遺構の時期については遺物の発見がないため言及することできない。はたして、この場所が茶屋場として存在していたかどうかについても断定することはできなかったが、調査により井戸跡が発見されたことは茶屋場跡としての可能性を示唆するものである。

5. 二本木茶屋場井戸跡



第10図 井戸跡、平面・土層断面図(1/30)

〇区南側では、阿蘇塔結凝灰岩製の板状切石で構築された組合わせ式の井戸が検出された。上下とも石製で、上部構造に関しては5枚の石が接するか一角を重ねるかたちで確認され、すべての石の接面に三和土が使用されていた。一面を5枚石で構築しているが、さらに上の部分にも何らかの構築物を有していたと考えられるが現況では確認することができなかった。下部構造については、均整のとれた長方形の8枚石を8角形に組み、上部と同じように石の接面を三和土で目張りしている。また、上下部の接面においても三和土は使われている。出土遺物は、瓦片2点(平瓦、丸瓦)と鉄製品(鍋か?)の一部が出土した。(吉田)

井戸跡土層説明

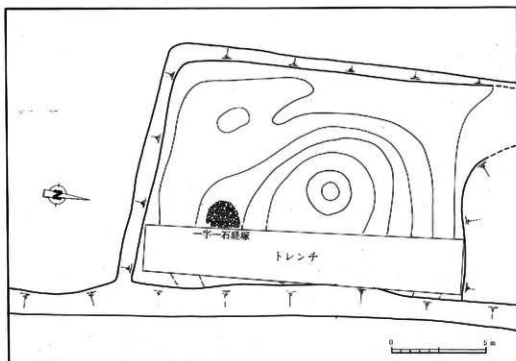
- 1層 暗茶褐色 ローム混合 粘性土
- 2層 暗褐色 砂礫土 鉄製品
- 3・6・8層 茶褐色 炭化灰多量 粘性土
- 4・7・9層 暗茶褐色 ローム混合 粘性土
- 5・12層 黄茶褐色 炭化灰多量 炭化物多量(12層) 粘性土
- 10層 茶褐色 炭化物多量 粘性土 瓦片2点
- 11層 泥炭層
- 13層 褐色粘土質土 炭化物多量



井戸跡出土遺物(平瓦)



井戸跡出土遺物(丸瓦)



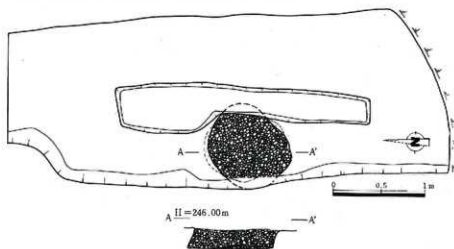
第11図 一字一石経塚平面図(1/200)

6. 一字一石経塚

本塚は、南北径13m東西径10mのほぼ隅方形で現地安平坦面よりの高さ1.2mを測るマウンド状を呈する。一字一石経塚はこのマウンドの南方で検出された。上面径90cm、底面径100cm、深さ30cmの袋状の壜穴に礫石縁がぎっしりと埋納されていた。一字一石経は総数48,194個で「レ」を含む判読不可能な墨書石総数2,669個、判読可能な墨書石総数821個であった。このうち1点のみ弥生土器片を転用したものが認められた。その他、銅銭、唐津焼小皿も出土した。銅銭は、径2.4cm、厚さ1mm、重量1.95gを測る。一字一石埋納土坑内から出土した銭貨で銅製寛永通寶である。時期的には寛永通寶第三期(1697年以降)に鋳造されたもので俗に新寛永と呼ばれるものである。唐津焼小皿は内底面に胎留め痕が認められることから、1590年～1610年の間に製作されたものであり、底部を故意に割り、メンコ状に加工している。

以上のことから本埋納土坑の造立上限は1697年以降であることが明らかになった。

(後藤、村上)



第12図 一字一石経埋納土坑平・断面図(1/40)



第13図 土坑内出土銭(実大) 拓本

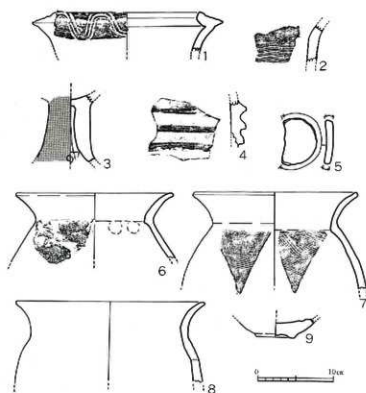
7. 出土遺物について



第14図 二本木遺跡出土縄文土器実測図(1/4)

表1 二本木遺跡出土縄文土器観察表

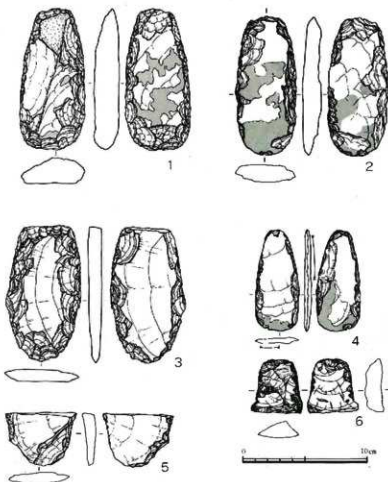
NO.	器種	部位	調整手法	色調	胎上	時期
1	深鉢	口縁	不明	茶褐色	角閃石を含む	時期初頭(大石式)
2	同上	口縁	ヘラミガキ	同上	同上	同上
3	浅鉢	口縁	ヘラミガキ	黒褐色	同上	同上(滋賀式里)
4	深鉢	口縁	ヘラミガキ	暗茶褐色	角閃石・石英を含む	同上(大石式)



第15図 二本木遺跡出土弥生・近世土器実測図(1/6)

表2 二本木遺跡出土土器観察表

NO.	器種	部位	調整手法	色調	胎土	時期
1	甕	口縁部	外面ハケ目後 横溝波状文	淡黄褐色	石英粒を含むが精微	弥生後期後半
2	甕	胴部上半	外面ナデ後 横溝文	暗茶褐色	角閃石粒含むが精微	同上
3	高坏	脚部	外面茶色顔料 塗布後ミカキ	淡黄褐色	精微	同上
4	一 壺	胴部	内外面ナデ	同上	石英粒含むが精微	弥生時代後期
5	メソコ状 土製品		内外面ナデ 周縁筋文	暗茶褐色	角閃石含むが精微	同上
6	甕	口縁部一胴部	外面ハケ目	明褐色	精微	弥生時代後期終末
7	甕	同上	内外面ハケ目	同上	精微	同上
8	甕	同上	内外面ナデ	暗茶褐色	角閃石と長石を多量に含む	同上
9	唐津焼 小皿	底部	外面面無釉	灰白色	精微	1590～1610年



第16図 二本木遺跡出土石器実測図(1/3)

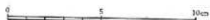
表3 二本木遺跡出土石器観察表

単位(cm、g)

NO.	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ
1	扁平打製石器	結晶片岩	11.3	5.15	2.0	198
2	同上	同上	11.05	4.90	1.40	114
3	同上	輝石安山岩	10.9	6.05	1.05	97
4	同上	結晶片岩	8.15	3.55	0.50	22
5	石刃型石器	輝石安山岩	4.20	5.70	1.00	27
6	スクレーパー	腰形炭黒曜石	4.35	4.15	1.30	23



第17圖 二本木遺跡一字一石經実測図 (1)





第18圖 一字一石實測圖 (2)



第19圖 一字一石經實測圖 (3)

8. 小 結

二本木遺跡は昭和40年代から50年代にかけて実施された畑地帯総合土地改良事業の際に初めて調査され、昭和50年度から53年度にかけての試掘・本調査において100軒以上の住居跡が確認されている。特に昭和51年度の調査では、複雑に切り合った状態で65軒の住居跡が確認されており、他にも土坑5、多数の柱穴等が検出されている。これらすべて弥生時代後期から古墳時代前期にかけて構築されたものであり、当時この地点に大集落が存在したことを裏付けた。

さて、その後大野町やその周辺の市町村では、農業生産体質強化事業や畑地耕作者個人が黒土販売業者と契約し、畑地の黒土を除去し耕作面とする工事が頻繁に行なわれた。この工事が行なわれると主な遺跡検出面である上部ローム層までがカットされそこに遺跡が存在した場合には、完全な破壊を受けてしまう。町教育委員会ではそのつど対応し平成4年度には北区の発掘調査を行なった。しかし、工事途中であったために遺構はある程度破壊されていた。また、今後工事が行なわれる予定の二本木遺跡南区については試掘調査を行い、堅穴式住居跡2基を検出、内1基を完掘したことにより二本木遺跡の範囲が大幅に確認された。

平成5年度調査のM地区は昭和51年度調査区の北側に隣接する台形の畑地であり、西側から東側に向かって緩やかに下降している。調査の結果、調査区南側から中央部に掛けて住居跡12軒を確認した。これらのうち4基は、工事により攪乱を受けておりプランは確認できなかった。さらにその他の住居跡についても、ゴボウ栽培による攪乱を受けていた。また、昭和53年度の試掘では13軒の住居跡が検出されているが、当時の図面と今回の図面とを見比べてみるとその内一軒が重機により攪乱を受けている地点と重なっており、工事の際に破壊されたと考えられる。これらの住居跡の時期は、弥生時代後期から古墳時代初頭であると考えられ前回調査の住居群と一致する。また調査区中央部から北側にかけては全く住居跡が存在せず、集落の密集地がこの地点で終了し、北区の溝にかけては空間が存在するものと推定される。

今回の調査では縄文時代晩期包含層、弥生時代後期～終末の条溝の一部及び堅穴住居、江戸時代の茶屋跡、一字一石経塚など多様な遺構、遺物が検出された。

二本木遺跡一字一石経塚付近の包含層中より縄文土器が数点出土した。包含層中ではあるがいわゆる御領式深鉢及び遊貿單式の浅鉢が共伴し、これとともに扁平打製石斧が多く出土している。深鉢は口縁部のみであるが口縁部文様帯に多条の細沈線を巡らしているもので大石式新段階のものであろう。これに弧状沈線の遊貿單式浅鉢が共伴しているところから時期は晩期初頭前後のものであろうか。

弥生時代の二本木遺跡は今回の調査で集落のある台地のくびれ部に条溝を巡らすことがあきらかになり、堅穴住居の東側に掘立柱建物倉庫群の存在も認められ、大野川流域における中核的ムラの実像をある程度明らかにすることができた。

江戸時代の一字一石経塚については、すべての石を持ち帰って整理しなければならないのかという行政的命題に対して太宰府市教育委員会の狭川真一氏にパソコンによる統計処理を行ってもらい成果を得ることが出来た。今後このような調査法が全国的に広がることを期待したい。但し、遺物の保管については今後の課題として残る。また、この塚は本来街道沿いに造られた一里塚としてあった可能性もあり、そこが後に茶屋場となったと推定でき、街道における茶屋場の考古学的調査は、今後の近世考古学の課題の一つとなろう。(村上・後藤・吉田)

第3章 まとめ

1. 弥生時代条溝集落について

大野川中上流域では弥生時代から古墳時代にかけて、大集落を形成するような遺跡はすべて台地上に存在し、一部を除いて古墳時代の始まりと共に台地上から姿を消してしまふ。大野原台地の二本木遺跡についてもその成立は弥生時代後期であり古墳時代前期にかかる遺物も発見されているが少量であり、他の集落と同様の軌跡を辿ったであろう。また、近中遺跡など弥生時代中期以前の住居跡が周辺で発見されているが、いずれも2～10軒と小規模・短期間の存在であり中核的な集落を形成するには至らなかったと推定する。

二本木遺跡は、現在大野川中流域の典型的弥生集落遺跡として周知されているが、この遺跡が初めて確認されたのは昭和50年の試掘調査であり、翌年の本調査により弥生時代後期の住居跡60数軒の他多数の遺構が検出された。周辺のその他の遺跡と比べて明らかに規模の違う集落を形成している点、出土した土器から発見された板瓦痕などから稲作を行なう台地性集落として注目された。その後、昭和52年・53年には集落範囲確認のための試掘調査が行なわれ数軒の住居跡が検出されている。また平成4年度には住居跡密集地北側(北区)で条溝、南側(南区)にて住居跡2軒を確認、5年後には密集地に隣接するM区にて竪穴式住居跡数軒と住居跡群の側で掘立柱建物2棟を検出し住居跡密集地の北限南限及び存在を確認した。さて、このように断続的に調査されてきた二本木遺跡であるが、吉野ヶ里遺跡に代表される大規模開発にて発見された遺跡とは違い小規模な開発に対応した発掘調査の結果発見された遺跡であったためその全体像が掴めなかった。しかし今回、平成8・9年度D区の調査によりいくつか新しい事実が確認され、集落景観が推定できるようになったのでここではまとめとして、その点について述べてみたい。

二本木集落は標高約240mの台地地峡部(東西約150m・南北約400m)に存在する。全体の景観としては、台地中心部に住居密集地(南北約80m・東西約70m)があり、密集地の北側約140m南側約80mに(どちらも台地のくびれ部を繋ぐ)条溝が認められた。この条溝で区切られた空間規模は、福岡県平塚川添遺跡の環濠空間とはほぼ同規模である。集落西側は、急傾斜地であり、それが二本木集落条溝が住居密集地を完全に囲まずに形成された一因であると考えられる。つまり、溝は急傾斜な台地東西の谷部に向って掘ることでその機能を十分に果たしていたと考えられるため、その性格としては軍事的なものよりも野性動物等の排除あるいは政治的空間形成の役割を持っていたのではないだろうか。北側条溝までの空間には試掘等では目立った遺構は確認されて、畑地あるいは広場の空間であるとの推測もできる。また、南側条溝までの空間には住居跡が数基確認されている。両条溝外側からは現在までのところ条溝と関連する遺構は確認されておらず耕作地の可能性が高い。

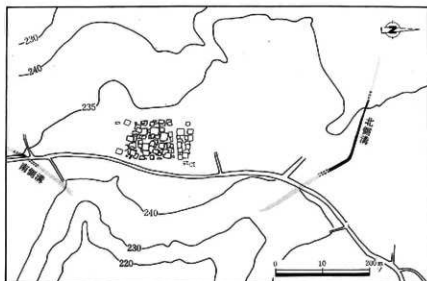
さて、それでは遺構個々の内容と出土遺物をみてもと住居跡群はその出土土器の編年対比によりⅠからⅥ期に分けられ、その数は集落が形成され始めたⅠ・Ⅱ期には数軒である。また最も出土遺物の多く住居跡も多いのがⅢ期であり後漢製内行花文鏡片が出上した34号住居もこの時期に属し、当時の最新技術である鉄器(手鎌・手斧・鋤等)や磨製石器(斧・鋤等)も大量に出土した。その後、Ⅳ期・Ⅴ期と徐々に住居跡の数は減少していき集落終焉のⅥ期には数軒になってしまふ。条溝の断面は、北側のものは急角度のV字またはY字を形成し、その深さ(ローム層最上部から測定)平均約170cmに対し南側のものは緩やかなV字形を形成し深さは平均約50cmである。また、どちらも最底部より鉄分を多く含んだ沈殿物が検出されており常時水が流れていたとは考えられずいわゆる空堀であったと考えられる。北側条溝からは、ある程度遺物が出上しているがそのほとんどがⅥ期に属し、その出土位置が全て埋土中であることから、条溝が形成されたのは最も住居跡の多いⅢ期でありその機能を必要とするⅣ期・Ⅴ期においてはすでに整備されるためゴミ等が投棄されることがなく存続し、その必要性をなくしたⅥ期において自然あるいは人為的に埋まりこれらの遺物がまぎれこんだものと推測される。なお、南側条溝からはほとんど遺物が出上していないが、遺構の性格上北側条溝と同時期の成立と考えられる。

これらの点から二本木集落の変遷をまとめてみると、Ⅰ～Ⅱ期は人口も少なく非継続的な集落であったものが、Ⅲ期に入ると、耕具・耕作技術の発達向上(台地上であるので陸稲など)による収穫量の増加、それに伴う人口増加が二本木集落を小規模な「ムラ」から大野原台地上に存在した「中核的ムラ」(周辺の小規模集落を含む)の中で条溝や掘立柱倉庫を数棟持つ政治的色彩の濃い中心集落へと発展し、つづくⅣ期にかけて二本木集落は最盛期を迎えたと考えられる。しかし、当時首長の象徴的遺物であった銅鏡片がⅢ期のみで属する住居跡に廃棄されていること、また竹田市小園遺跡や石井入口遺跡などにある弥生時代小型仿銅鏡の出土がないことを考えると、

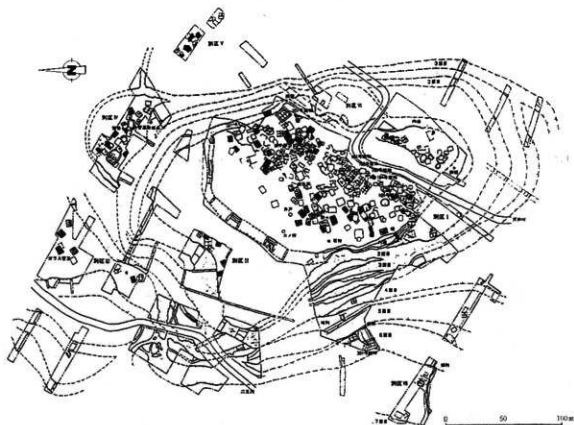
同時期に小竹長をリーダーとするこの二本木集落がなんらかの政変もしくは、他集落に「中核的ムラ」に移った可能性も考えられる。その後条溝集落としては最終のⅤ期を経過したのち、古墳時代始めに属すⅥ期に入ると二本木集落はその役目を終え集落の中心地は大野原台地より消滅する。

以上、二本木集落の変遷についてまとめてみたが、まだまだ不明な部分が存在するが、その中の2点をあげてみると①は明確な領域が見えられていないことであり、②は二本木集落終焉後の移動先が特定出来ていないことである。これらは二本木遺跡周辺の急傾斜地を含む谷部の調査がほとんど行われていないのが原因であり、今後これらの調査が待たれるところである。

なお、本稿は一部村上の意見を入れて、執筆したものであり記して感謝の意をあらわすものである。(後藤)



第20図 二本木遺跡環溝内遺構図



第21図 平塚川添遺跡遺構配置図

2. 二本木茶屋跡について

大野町には、岡藩城主中川氏ゆかりの休憩所として現在3カ所(二本木・牧原・菅坂)の茶屋跡が知られている。そのなかで二本木茶屋跡は、唯一町史跡の指定(昭和50年)を受けているのである。現況において確認できるものは土塁状遺構(以下、土塁と称す)のみであったが、今回の調査成果としての発見があげられる。井戸の発見は、土塁を含めたこの場所が茶屋跡として考え得る1つの資料となる。

井戸(第10図)は、Ⅰ区の南側に検出された。構築には、すべて凝灰岩の切石を使用しており平面は八角形である。また、底部は素堀りの状況を示していた。茶屋跡から西側斜面を降りて行く途中に中川氏が馬場として使用していたという旧家がある。その旧家の脇に本来石畳が敷かれていたがすぐそばに移築されており、その先は通称“おつる水”とよばれる水場にたどり着く、井戸との距離500mほどで、時間にして5分とかからない位置である。井戸と土塁との距離は約20mで、その間において関連する遺構の発見が考えられたが調査区においては関連すると思われる遺構は検出されなかった。井戸と土塁との関連性が問われる所であるが時期の特定できる遺物の発見はなかったが井戸の構造と中より瓦片が出土していることをふまえれば庶民の使用していた井戸とは考えにくく、中川氏の往還(大剣道)にも近いことから休憩所として使われた茶屋跡の井戸と考えることもできる。また、大剣道については短期間の利用であったとされているので当然茶屋跡としての使用期間も短かったと思われる。この施設を必要としなくなった後、この場所が本来の目的を終え別利用されていた可能性も考えておくべきではなかろうか。この点については先にも触れているが、土塁の南側に直径20mの塚(礎石経を含む)を有していることから一果塚と推定される。

土塁Ⅰ区(第8図)は、3m四方(面積約9㎡)の空間を有しており出入口として北東隅が切られている。最近まで方形の切石(1枚石)が置かれていたことが地元で知られていたが、Ⅰ区は御駕籠置場だと思われる。しかし、残念ながら近年盗難にあったということである。周辺では、此のほか朝地町川作(平岩3枚)と町町若宮八幡社下で御駕籠置場を見ることができる。

土塁Ⅱ・Ⅲ区(第8図)に伴う土塁列は、東側を県道で切られているため全容を把握することはできないものの道路を挟んだ畑地には土塁を確認することができないため道幅6mの間で収まることが考えられる。また、Ⅱ区ではⅠ区と同じように北西隅を出入口としてあけている。道路側に面した土塁の断面観察からⅡ区の北側土塁は土塁状に地山を整形しているが南側土塁は地山を水平に整形したあと盛土しているという違いが確認できた。本来はⅡ、Ⅲ区が1つの空間を有していた可能性も考えられ、これらが何らかの理由で後に区分けする必要が起ったものと思われる。

現段階では、土塁で囲まれた3つの空間と井戸のみが明らかになっているだけで、茶屋跡を裏付ける史料もないため具体的な実像に迫ることができなかったのは残念である。しかしながら、調査によって井戸が発見されたことや土塁の入り口が北側に設けられていた事実またその方向に当時の石畳道が通っていたことを踏まえれば当地が茶屋跡として存在していた可能性を考えるに十分な資料ではないだろうか。今後の課題として残るのは、主とする建物跡や使用していた雑器類の発見に至らなかったことで存続時期も特定できなかったことである。

今回の調査では、当時の二本木茶屋跡を復元するには至らなかったが県内における他の茶屋跡の調査例を参考資料として提示した。

1 日付市「茶屋跡遺跡」では、主に礎石建物のほか集石遺構、集石列、埋石土坑、土塁状遺構などが確認された。礎石の配列からは、上隅・付属・庇隅根が想定され、建物の西側にある2基の埋石土坑には凝灰岩の切石と瓦片が埋められていた。出土陶磁器は、碗を中心に皿・指鉢・壺などで、碗は全体的に肥前系ものが多く時期はいずれも19世紀前～中期にかけてのものである。また出土瓦については、軒丸瓦の特徴からみて江戸後～末期と思われ詳しい年代については残瓦に施された製作者の押型で明らかにされるものと思われる。このほか、携帯用磁石や馬蹄などが出土している。結果、出土陶磁器の個体数の多さが一介の在の住家には相応しくない点、礎石建物の構造が在地における19世紀の家屋建築とは一線を画するものであること、また地元において比較的具体性を帯びた伝承が残っていることなどから考えて江戸時代末期に茶店が有在したと考えられている。

2 竹田市「河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡」では、¹岡城城下家中国に見えていた御茶屋、馬場、屋敷が検出された遺構とそれぞれ対応することが確認された。発掘調査以前から馬場の施設として推定されていた土塁遺構の再確認と面的な調査により城下における茶屋場すがたが一部明らかにされている。茶屋場跡では、溝、礎石列、階段、土坑、柱穴などが検出された。出土遺物も1600年～1740年代に比定できるもので、元禄年間の御茶屋建設の記録と矛盾しない事がわかっている。存続期間は、出土遺物より19世紀まで存在した可能性があり、また同迹の屋敷跡は大保5年以降の遺構であるとされている。

以上、調査例は少ないものの周辺の犬飼町、千歳村、朝地町には茶屋場跡あるいはそれに関連すると思われる遺構(土塁、御駕籠置場など)の存在が知られている。これからの街道沿いにおける茶屋場跡の調査は、茶屋場の規模や存続時期または建物の配置などが明らかになっていくことを期待したい。このことは今後の近世史研究の発展に大きく寄与するものであると考える。

今回の県道改良工事により土塁の一部が破壊されたことは非常に残念なことであったが、井戸については真砂土による埋土保存の措置がとられた。(古田)

〈参考文献〉

「歴史の道」調査報告書 岡城路 大分県文化財調査報告第72輯(大分県教育委員会 1986)

神用 高士「峠の茶店(1) 茶屋峠遺跡・殿様道から」『白杵史談』85(白杵史談会 1994)

神用 高士「峠の茶店(2) 茶屋峠遺跡・殿様道から」『白杵史談』86(白杵史談会 1995)

吉田 寛「河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡」(大分県教育委員会 1995)

3. 二本木茶屋場跡一字一石経塚の経石について

大宰府市教育委員会 狭川 真一

1. 二本木茶屋場跡の一字一石経塚から出土した、経石とみられる石の総数は48,193個にのぼる。そのうち墨書ないしは墨痕を残すもの3,489個であった今回、一応刊記が可能であった。819個の墨書経石について分析を試み、経典の種類を特定してみたい。

2. 経石と見られる総数及びこれまでの一字一石経塚、また一般の経塚に埋納された経典からそれが法華経であったであろうことはすぐに想像がつく。そこでまずこれらが法華経であるかどうかという点と、書写された文字に規則性が認められるのかどうかなどを検討することからはじめたい。

法華経の文字検索にあたってはパソコンを用いることとし、(財)元興寺文化財研究所の藤澤典彦氏からご提供いただいた「法華経データベース」を使用した。ただしデータはMS-DOS対応のカード型データベースソフト(管理工学研究所「綱」)で作成されていたため、筆者の使い慣れたMac-OSに変換して作業を実施した。変換は一旦両OSに共通するソフト(マイクロソフト社「Excel」)にテキストデータとして抽出し、それをMac-OS内にある同一ソフトで開き、さらにそれをSYLKファイルとして保存したのち、カード型データベースソフト(クラリス社「ファイルメーカーPro.V.2.1」)に流すという作業工程で行った。変換作業は熊本県教育委員会の山城敏昭氏が行った。

さて検索作業の実際を記述しておく。変換されたデータベースを利用して、各字を行数単位で検索した。しかしこれでは該当文字が存在する行の数量は掴めるが、実際の文字数を掴むことが困難なため、さらに経文をタブ区切りテキストとして一旦抽出し、一字検索・置換機能のついたワープロソフト(Solo Writer1.3v2)で立ち上げ、個別に検索して経典中における個々の文字の総字数を機械的に抽出した。

これらのデータを表に表したのが第1・2表である。

また法華経は28の章からできており、各文字がどの章に存在するかを定性的に抽出する作業も行った(今回表は提示していない)。以下、これらを使用して解析した結果を略述する。

3. 法華經の総行数は4,089行、総文字数は69,607字にのぼる。表には出土した文字種に対してその出土個数、該当文字の法華經中における各総文字数、該当行数を抽出した。さらにその出現頻度を知るため該当文字数/総文字数を出したが、分母値が巨大なため多くの文字で小数点第2位までの表示では0.00になってしまい参考とならないため、該当行数/総行数に変更した。これと出土文字の個体数を比較したものが表1・2に添付したグラフである。同一行内に同じ文字が複数含まれる行も存在し、この比較は必ずしも同じ基準に従ったものとは言えないが、その頻度では大きな差はなく、視覚的に理解する必要性からやむを得ずこのような数値を用いている。出土文字の個体数も実際は頻度で示すべきであるが、同様な理山から個体数としたことをご了解願いたい。なおいずれも必要データをプログラムし解析した上での判断である。

4. まず表の解説から行っておく。判読された文字の内まったく該当がなかった文字も実のところは存在する。「詞」「浜」「梅」「顔」「大」「ラ」「訴」「殖」「側」などである。このうち「顔」は「願」、「大」は「大」あるいは「丈」、「訴」は「許」、「側」は「側」、「西」は「西」、「亡」は「七」、「秋」は「秘」の誤字または誤読ではないかと考えている。「願」「大」「許」「側」「西」「七」「秘」は法華經内に該当文字がある。他の文字もおそらく誤字または誤読とみられるが、該当しなかった文字については今後の検討課題として残しておきたい（パソコンの辞書に存在しない文字もあり、その文字の誤字とも考えられる）。さらに出現頻度との比較を行った結果であるが、「丈」は「大」の誤字または誤読の可能性もあることを付記しておく。

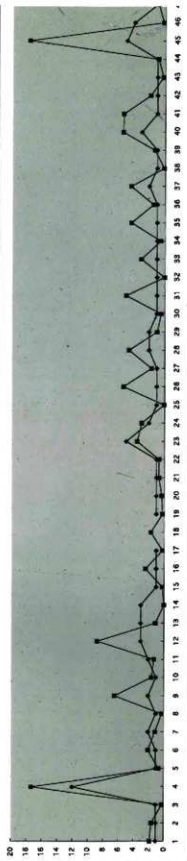
しかしながら、法華經中における出土文字の有無だけを捉えてみても、該当する確率は95%以上になりこれだけをもってしてもここに記載された文字が法華經であることを物語るものと言えよう。

また表では行頭と行末文字における出現数も各文字で行った。これについてはかなりのばらつきが見いだされ、行頭・行末ともに該当しない文字も多数含まれている。したがってこの点から、書写された文字は行頭や行末を故意に意識して書写されたものでないことは確かである。また、総字数を検索する際の作業中において2字目、3字目などの特定位置や、各章の特定行といった傾向も見えるのではないかと考え、それが可能な状態で作業したが特別な傾向は見いだせていない。なお行頭文字のみを書写したと思われる例は、近場では熊本県五木村頭地松本遺跡の例がある。

次にグラフを見てみたい。この結果をみると多くのところで出現頻度と個体数のグラフの山や谷が一致していることに気付く。もちろん逆転しているところではないが、多くの部分で一致しており、これは今回検出の経石が法華經を書写したものであることを示すと言って問題はないだろう。さらに確実に存在する文字において、出土個体数が実際に法華經内に存在する文字の数を上回ることはないこともこれが法華經であることを示唆するものと言えよう。

さて、法華經は28の章から成立していることから、書写された文字はどれかの章に限定されている可能性があるのではないかと予想が思い浮かぶ。これに対してはまず、法華經内でごく少数しか使用されていない文字の抽出作業である程度の推測は成り立つ。この結果では「捨」がわずか1字で提婆達多品第十二、「侵」が3字で陀羅尼品第二十六に集中している。同様に「屏」は1字で安樂行品第十四、「荷」は2字で信解品第四・法師品第十に各1字づつなど特定の章に限って見いだされる傾向にはない。さらに他の文字をみても該当する章、しない章に法則性は認められず、特定の章を記載したものではないと言える。

5. 以上の結果から二本木米岡跡一字一石経塚に書写された經典は、間違いなく法華經であると言えよう。そして第1・2表及び検出された石の総数は、それが全巻を書写したものであることを物語っていると言える。ただし墨書がない石については当初からなかったのか、何らかの要因で消滅したのか判断できないが、書写されずに埋納されたことも考えておく必要があろう。それには未判読の文字の解明の必要であり、将来それが可能になった折りに、書写作業における何らかの法則性が見いだせるかも知れない。

[illegible]

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

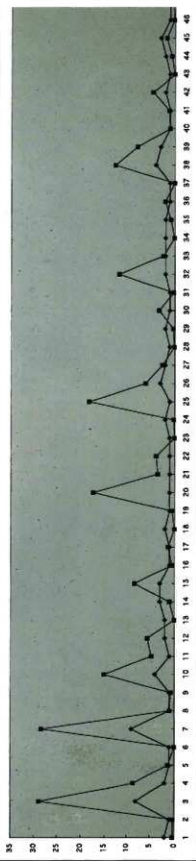


表4 出土文字一覧表と出土数・該当行数の比較グラフ(その1)

1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100	2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109	2110	2111	2112	2113	2114	2115	2116	2117	2118	2119	2120	2121	2122	2123	2124	2125	2126	2127	2128	2129	2130	2131	2132	2133	2134	2135	2136	2137	2138	2139	2140	2141	2142	2143	2144	2145	2146	2147	2148	2149	2150	2151	2152	2153	2154	2155	2156	2157	2158	2159	2160	2161	2162	2163	2164	2165	2166	2167	2168	2169	2170	2171	2172	2173	2174	2175	2176	2177	2178	2179	2180	2181	2182	2183	2184	2185	2186	2187	2188	2189	2190	2191	2192	2193	2194	2195	2196	2197	2198	2199	2200	2201	2202	2203	2204	2205	2206	2207	2208	2209	2210	2211	2212	2213	2214	2215	2216	2217	2218	2219	2220	2221	2222	2223	2224	2225	2226	2227	2228	2229	2230	2231	2232	2233	2234	2235	2236	2237	2238	2239	2240	2241	2242	2243	2244	2245	2246	2247	2248	2249	2250	2251	2252	2253	2254	2255	2256	2257	2258	2259	2260	2261	2262	2263	2264	2265	2266	2267	2268	2269	2270	2271	2272	2273	2274	2275	2276	2277	2278	2279	2280	2281	2282	2283	2284	2285	2286	2287	2288	2289	2290	2291	2292	2293	2294	2295	2296	2297	2298	2299	2300	2301	2302	2303	2304	2305	2306	2307	2308	2309	2310	2311	2312	2313	2314	2315	2316	2317	2318	2319	2320	2321	2322	2323	2324	2325	2326	2327	2328	2329	2330	2331	2332	2333	2334	2335	2336	2337	2338	2339	2340	2341	2342	2343	2344	2345	2346	2347	2348	2349	2350	2351	2352	2353	2354	2355	2356	2357	2358	2359	2360	2361	2362	2363	2364	2365	2366	2367	2368	2369	2370	2371	2372	2373	2374	2375	2376	2377	2378	2379	2380	2381	2382	2383	2384	2385	2386	2387	2388	2389	2390	2391	2392	2393	2394	2395	2396	2397	2398	2399	2400	2401	2402	2403	2404	2405	2406	2407	2408	2409	2410	2411	2412	2413	2414	2415	2416	2417	2418	2419	2420	2421	2422	2423	2424	2425	2426	2427	2428	2429	2430	2431	2432	2433	2434	2435	2436	2437	2438	2439	2440	2441	2442	2443	2444	2445	2446	2447	2448	2449	2450	2451	2452	2453	2454	2455	2456	2457	2458	2459	2460	2461	2462	2463	2464	2465	2466	2467	2468	2469	2470	2471	2472	2473	2474	2475	2476	2477	2478	2479	2480	2481	2482	2483	2484	2485	2486	2487	2488	2489	2490	2491	2492	2493	2494	2495	2496	2497	2498	2499	2500	2501	2502	2503	2504	2505	2506	2507	2508	2509	2510	2511	2512	2513	2514	2515	2516	2517	2518	2519	2520	2521	2522	2523	2524	2525	2526	2527	2528	2529	2530	2531	2532	2533	2534	2535	2536	2537	2538	2539	2540	2541	2542	2543	2544	2545	2546	2547	2548	2549	2550	2551	2552	2553	2554	2555	2556	2557	2558	2559	2560	2561	2562	2563	2564	2565	2566	2567	2568	2569	2570	2571	2572	2573	2574	2575	2576	2577	2578	2579	2580	2581	2582	2583	2584	2585	2586	2587	2588	2589	2590	2591	2592	2593	2594	2595	2596	2597	2598	2599	2600	2601	2602	2603	2604	2605	2606	2607	2608	2609	2610	2611	2612	2613	2614	2615	2616	2617	2618	2619	2620	2621	2622	2623	2624	2625	2626	2627	2628	2629	2630	2631	2632	2633	2634	2635	2636	2637	2638	2639	2640	2641	2642	2643	2644	2645	2646	2647	2648	2649	2650	2651	2652	2653	2654	2655	2656	2657	2658	2659	2660	2661	2662	2663	2664	2665	2666	2667	2668	2669	2670	2671	2672	2673	2674	2675	2676	2677	2678	2679	2680	2681	2682	2683	2684	2685	2686	2687	2688	2689	2690	2691	2692	2693	2694	2695	2696	2697	2698	2699	2700	2701	2702	2703	2704	2705	2706	2707	2708	2709	2710	2711	2712	2713	2714	2715	2716	2717	2718	2719	2720	2721	2722	2723	2724	2725	2726	2727	2728	2729	2730	2731	2732	2733	2734	2735	2736	2737	2738	2739	2740	2741	2742	2743	2744	2745	2746	2747	2748	2749	2750	2751	2752	2753	2754	2755	2756	2757	2758	2759	2760	2761	2762	2763	2764	2765	2766	2767	2768	2769	2770	2771	2772	2773	2774	2775	2776	2777	2778	2779	2780	2781	2782	2783	2784	2785	2786	2787	2788	2789	2790	2791	2792	2793	2794	2795	2796	2797	2798	2799	2800	2801	2802	2803	2804	2805	2806	2807	2808	2809	2810	2811	2812	2813	2814	2815	2816	2817	2818	2819	2820	2821	2822	2823	2824	2825	2826	2827	2828	2829	2830	2831	2832	2833	2834	2835	2836	2837	2838	2839	2840	2841	2842	2843	2844	2845	2846	2847	2848	2849	2850	2851	2852	2853	2854	2855	2856	2857	2858	2859	2860	2861	2862	2863	2864	2865	2866	2867	2868	2869	2870	2871	2872	2873	2874	2875	2876	2877	2878	2879	2880	2881	2882	2883	2884	2885	2886	2887	2888	2889	2890	2891	2892	2893	2894	2895	2896	2897	2898	2899	2900	2901	2902	2903	2904	2905	2906	2907	2908	2909	2910	2911	2912	2913	2914	2915	2916	2917	2918	2919	2920	2921	2922	2923	2924	2925	2926	2927	2928	2929	2930	2931	2932	2933	2934	2935	2936	2937	2938	2939	2940	2941	2942	2943	2944	2945	2946	2947	2948	2949	2950	2951	2952	2953	2954	2955	2956	2957	2958	2959	2960	2961	2962	2963	2964	2965	2966	2967	2968	2969	2970	2971	2972	2973	2974	2975	2976	2977	2978	2979	2980	2981	2982	2983	2984	2985	2986	2987	2988	2989	2990	2991	2992	2993	2994	2995	2996	2997	2998	2999	3000
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

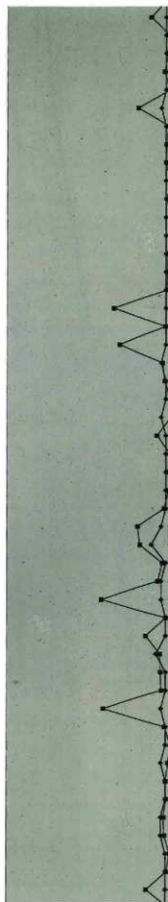
[illegible]

表6 出土文字一覽表と出土数・該当行数の比較グラフ(その3)

写真図版



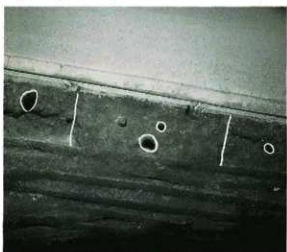
発掘調査作業風景



① 二本木遺跡全景



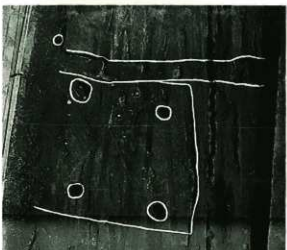
② 二本木遺跡茶屋場全景



③ 83号竪穴住居全景



④ 85号竪穴住居全景



⑤ 84号竪穴住居全景



⑥ 二本木茶屋場井戸遠景



⑦ 井戸近景 1



⑧ 井戸近景 2



⑨ 井戸土層



⑩ 一字一石経塚遠景



⑪ 一字一石経塚出土状態 (1)



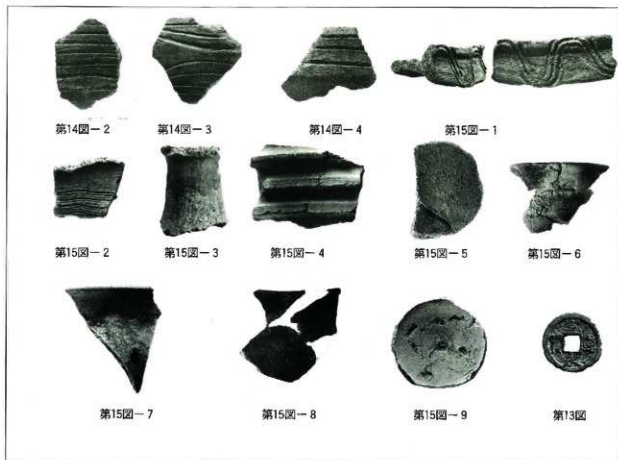
⑫ 一字一石経塚出土状態 (2)



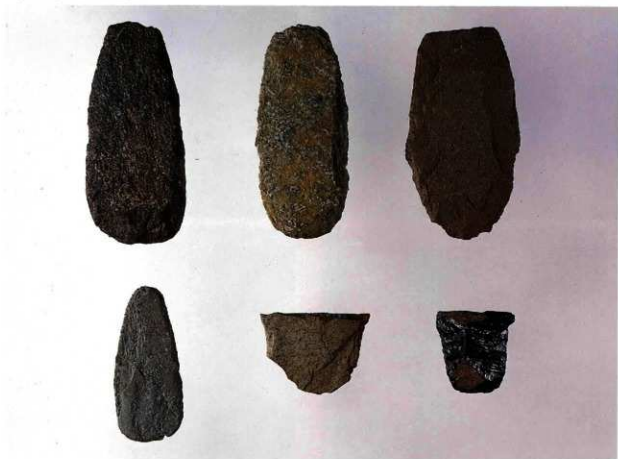
⑬ 南側溝検出状態



⑭ 溝内柱穴検出状態



⑬ 二本木遺跡出土土器



⑭ 二本木遺跡出土石器

抄 録

ふりがな	にほんもく いせき							
書 名	二本木遺跡							
副 書 名	県道緒方大野線改良事業に伴う発掘調査報告書							
巻 次	一							
シリーズ名	大分県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第99集							
編 著 者 名	村上 久 他							
編 集 機 関	大分県教育委員会							
所 在 地	〒870-0021 大分県大分市府内町3-10-1 TEL(0975)36-1111							
発 行 年 月 日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯 緯 度	東 経 経 度	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にほんもく 二本木遺跡	大分県大野郡 大野町 大字大原	大野町	545038			1996.0527 1997.0612	800㎡	県道改良 工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
二本木遺跡	包 含 層	縄文時代 弥生時代 近 世	包 含 層 条溝・竪穴住居跡 井 戸 一字一石経塚		縄文晩期土器 偏平打製石斧 弥生時代終末土器 平瓦・丸瓦 富永通宝・唐津焼小皿 一字一石経(法華経)			

大分県文化財調査報告書 第99輯

二本木遺跡

県道緒方大野線道路改良事業に伴う発掘調査報告書

平成10年3月31日

編集 大分県教育庁文化課

発行 大分県教育委員会

〒870-0021

大分市府内町3丁目10番1号

TEL 0975(36)1111

印刷 日の丸印刷株式会社

